

# ネジ、EV軽量化は商機

電気自動車（EV）化による商機の拡大が、ネジにも及んでいる。釘の国内シェアトップのアマテイはネジにも強みがあり、EVの軽量化のためバッテリーやモーターなどの取り付けでネジの使用が増える見通しだ。同社の佐藤亮社長に写真に成長戦略を聞いた。

——自動車分野の受注が堅調です。

「子会社のナテックが特殊ネジを生産している。かつてはOA機器向けがメインだったが、今は7割が自動車向けだ。EVは航続距離を伸ばすため、軽量化が求められている。部品も鉄でなく樹脂やアルミ製のものが増えていく。そうするとネジが使える範囲が広が

## 新工場建設、さらに増産も



り、採用数を増やす商機となる」

「ネジは締結部分に穴を開け、主体である『雄ネジ』を通して反対側の『雌ネジ』で締めることが多い。ただ形状などに工夫を施したナテックの特殊ネジは、雄ネジ自体が穴を開けながら貫通部分にしっかり食い込み、雌ネジが要らない。ネジは自動車1台に数千個は使われるため、軽量化への役割は大きい」

——現在のEV向けの引き合いや、増産の計画は。

「2023年3月期は半導体不足による自動車の減産で厳しい面があったにもかかわらず、EVやハイブリッド車（HV）関連の需要が増えたことなどで増益となった。引き合いは強く、自動運転の車載のセンサーの締結などにも使われるため、さらなる需要増が見込まれる」

「ナテックの岩手工場（岩手県奥州市）に第3工場を建設した。さらなる生産能力の拡大が必要で、新たな増産計画をこれから練る」

——主力製品である釘の成長性はどう見ますか。

「住宅用の釘が主力で、ナテックなどを除いた単体では売り上げの8割を占める。人口減により今後は着工件数の減少が見込まれ、厳しい業態ではある。その分、EV化によるネジへの需要増への期待は大きい。ただ、釘でも非住宅での需要は伸びていくと見ている。脱炭素の流れを受け、商業施設や教育施設などで木造の中高層の建物が増えていく」

「アマテイの釘の強みは、木材が割れづらい加工などを施した高機能品だ。政府などは建築に国産木材の活用を増やす方針を掲げている。国産木材で圧倒的に多い杉は柔らかく、割れやすかったり釘が抜けやすかったりするが、杉でも十分に機能を果たす釘を開発し販売している。こうした独自技術で、建築用の釘も引き続き伸ばしていく」

（聞き手は中村信平）